

第2学年2組 体育科学習指導案

学校名： 飯塚市立飯塚第一中学校

授 業 者： 石坂 未央

1. 単元名「 傷害の防止 」 3 / 4 時間

2. 授業のねらい

本単元は、傷害の発生についてはさまざまな原因があることを知り、具体的な事例を通して発生要因についての理解を深めるとともに、傷害を防止するためにはどのような対策をとればよいかを考えさせることをねらいとしている。指導にあたっては、傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対処を行うことが必要であることを理解する。また、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、車両、道路、気象条件などの周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることを理解し、現在及び将来の生活において傷害の防止に努めようとする態度を身につけさせたい。

【本時の主眼】

交通事故の原因について、3つの要因の関連性を示しながら、筋道を立てて説明することができる。

3. 単元計画 ⇒ 別紙 単元シートで提案

4. 上記の一連の学習で目指すゴール

傷害の発生には様々な要因あることを理解し、自他の危険を予測し、それらを基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、被害に遭わない状況や状態づくりを心がけ、安全に生活する態度を身につける。

5. 生徒の既有知識、学習の予想

生徒の多くが交通事故による傷害について、不注意や個人の行動のとり方といった当事者の人的な要因を強調することが予測される。しかし、交通事故の発生には当事者を取り巻いている環境要因や車両の要因も深く絡み合っており、人的要因に偏った視点からの対策では充分とはいえない。そこで、実際に起こった事例を取り上げ、要因間の関連を確認させながら、どうすれば傷害を防止することができるかについて考える学習を計画し、被害に遭わない状態や状況を作り出そうとする態度を育んでいきたい。

6. 期待する解の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるとき、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準）

交通事故が起こる原因は人的要因、環境要因、車両要因がかかり合って起こることを理解し、その防止について、各要因を踏まえて自分の考えを説明することができている。

A	B	C
交通事故には人的要因、環境要因、車両要因がかかり合って起こる事を理解できていて、事故を防止するために自分ができることを考えることができる。	交通事故には人的要因、環境要因、車両要因がかかり合って起こる事を理解できている。	交通事故には人的要因、環境要因、車両要因がかかり合って起こる事を理解できていない。

7. 学習のデザイン

時間	学習活動	支援等
前時	1 身近な事故について考える。 事前のアンケートを基に、身近に起こる事故について考える。 2 本時の課題を確認する。 <課題> 「事例を基に、交通事故の原因を探ろう！！」 3 課題に対する最初の考えを書く。 ○現時点での自分の考えを何名か発表する。	○アンケート結果を知らせ、本時の課題への意識付けをさせる。 ○事例を提示し、現時点で自分が考える交通事故の原因を、箇条書きまたは文章でより多く記入させる。 ○前時で学習した内容を基に予測させる。
	【事故事例 A】 夕方遅く、中学2年生のA君は、自転車に乗って学習塾へ向かう途中だった。薄暗かったが、ライトの電球がきれていたためライトはつけていなかった。A君は道幅が狭く、見通しの悪いカーブの下り坂を通過しようとしていた。ところが、その時Bさんが運転する普通乗用車が接近していた。Bさんは携帯の着信音に気をとられていた。A君に気づいて急ブレーキをかけたが間に合わず、乗用車と自転車は衝突した。 【事故事例 B】 A君は自宅から約200m離れた住宅街の狭い道路を自動車で行中、人家のブロック塀により左方道路の見通しの悪い交差点に差しかかりました。A君は、通勤時間に遅れそうであったことから、十分に減速して徐行することなく、かつ交差点に設置されたカーブミラーも確認しなかった。安全確認を怠って進行したため、左方道路から交差点に進入してきたB自転車に気付かず、衝突直前に発見して急制動しましたが間に合わず、B車の右側面にA車前面が衝突した。	
	4 エキスパート活動 ○資料を読み、各要因について考える。 ・エキスパートA【人的要因】 歩行者、自転車乗用車、自動車運転者の危険な行動について知る。 ・エキスパートB【環境要因】 危険を予知しにくい状況や突発的に想定外の行動が強いられる状況が起こる環境について知る。 ・エキスパートC【車両要因】 自転車や自動車の構造上の特性とその危険性について知る。 5 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。	○それぞれの資料から読み取った内容や考えた内容を、ジグソー活動で説明ができるように準備させる。 ○各エキスパートの議論を活発なものにするために机間指導を行い、進んでいないグループがあればつまずきに応じたアドバイスを行う。 ○資料にある要因だけではなく、他にはどんなことがあるか、自分たちの経験をもとに考えさせる。 ○本時と次時の学習内容を関連付けるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。

本時 15 分	5 ジグソー活動 ○課題についてグループごとに考えをまとめ、拡大した事例と場面図に付箋を貼る。	○拡大した事例と場面図を準備し、3つの要因について交流しやすくするために、色の違う付箋に根拠を書いて貼らせる。
20 分	6 クロストーク活動 ○他のグループの発表を聞いて自分たちのグループの考えを振り返り、課題についての考えを深める。	○要因を抜き出すだけにならないために、例文を提示し、3つの要因が関連するよう発表させる。
15 分	7 個に戻り、活用問題について考え、意見交流する。 ○通学路の写真から3つ要因を究明する。 ○どうすれば安全に通学することができるか考える。 ○考えた意見を全体で交流し、考えを深める。	○ワークシートや、クロストークでの発表内容などを参考にさせる。 ○通学路の写真を基に考えさせること交通事故を身近な問題として考えさせる。 ○これまでの既習事項である3つ要因を基に安全に登校するための手立てを考えさせる。
	7 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。	○本時と次時の学習内容を関連付けるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。

8. 各エキスパート・ジグソー＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパート・ジグソーで押さえたいポイント、そのために扱う内容・活動＞

エキスパートA：「人的要因」

人の行動だけではなく、精神的な部分も要因ということを知る。

自分の心身の状況、他者の状況、行動の仕方

エキスパートB：「環境要因」

危険を予知しにくい状況や突発的に想定外の行動が強いられる状況が起こる環境について知る。

道路状況、交通状況、環境条件

エキスパートC：「車両要因」

自転車や自動車の構造上の特性とその危険性について知る。

車両の整備不良、死角、停止距離

9. ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

次時の授業で提示される課題や身近な交通環境から、予想できる危険とその回避の仕方、社会的対策について話し合い、発表する。

10. グループの人数や組み方

3人×12グループ 4人×1グループ